

## 第2回静岡県防災会議専門部会（南海トラフ地震防災対応）議事概要

---

### 1 第2回専門部会の概要

日時：平成30年6月15日（金） 午前10時から正午まで

場所：県庁西館4階第一会議室

出席者：静岡県防災会議専門部会委員

### 2 議事概要

- (1) 国の検討状況
- (2) 第1回専門部会でいただいた意見とその対応
- (3) 「南海トラフ地震に関する新たな防災対応」の考え方
- (4) 脆弱性の評価と避難行動の在り方

主な意見は以下のとおり

#### 【学校の対応】

- ・ 前回部会でも意見にあったとおり、学校は地域の児童・生徒が集まる施設であり、地域の避難所に指定されることも多いため、学校の防災対応については地域全体で検討する必要がある。今後、県教育委員会と学校が緊密に連携し、学校の対応に係る課題の整理及び検討を進めなければならない。

#### 【脆弱性の評価】

- ・ 「脆弱性の評価」については、様々な状況が複雑に絡んでおり、県民がその状況に基づき、自ら避難行動の判断をすることは難しい。「脆弱性の評価」を避難行動の基軸とするのであれば、県民への周知をどのように行うのか検討すべきである。脆弱性を住民にも分かりやすく示し、漏れなく周知するための工夫が必要である。
- ・ 静岡県の特徴である震度7程度の強い揺れに関する検証も必要である。

#### 【防災対応の受忍期間の整理】

- ・ 住民の避難所での避難生活や事業者等の防災対応の受忍期間は、実際に南海トラフの西側や近隣において大規模な地震が既に発生しているケース（ケース1、2）と、そうではないケース（ケース3、4）では、期間が異なると思われる。よって、全ケース同一の防災対応を実施することは困難である。
- ・ 意見を集約し議論を深化するためには、情報発表後に社会がどのように進展していくのか具体的なシナリオやイメージ図により前提条件を示し、共有を図ったうえで検討する必要がある。